



夕刊

発行所
神戸新聞社
神戸市中央区東川崎町
1-5-7
郵便番号 650-8571
©神戸新聞社 2007年

2007年
2月3日(土) 夕刊

ブラジルをこよなく愛する人に出会った。神戸にある日伯協会の常任理事、田所清克さんだ。三十年以上にわたり、ブラジル研究一筋に打ち込む京都外国語大学教授である。

その人が興味深い話をしてくれた。ブラジルといえは、南東部のリオやサンパウロを連想するが、「ノルダステア」と呼ばれる北東部が面白い。ブラジルの原点ともいえる「もう一つの素顔」が見えるという。

十五世紀末、新天地を求めてポルトガル人がやってきたのが、この地だ。先住民インディオがポルトガル人と奴隷のアフリカ系の人

もう一つのブラジル

々と融合し、独特の文化と国民性を作ってきた。

その名残は、三様の言語が混じる言葉をはじめ、サンバやボサノバ、サッカーといった音楽やスポーツにといった音楽やスポーツに特に色濃い。田を代表する作家や芸術家も、この出身者が多い。そんな話を田所さんが近著「ブラジル北東部の風土と文学」（金壽堂出版）で紹介している。そういえば、現在のルラ大統領も、この人だ。ブラジルの大統領はこれまで裕福な南東部からと決まっていたが、四年前に初めて北東部から選出された。これも、国民の原点回帰なのだろうか。

ブラジルは今、新興経済国BRICsの一角として、また大豆やサトウキビ、鉄鉱石などの資源大国として世界から注目を浴びる。とくに最近では、中国が急接近していると聞く。それに比べ、日本は一時の企業進出熱は冷め、関心も薄れつつある。田所さんは「長い交流の歴史を持つのに寂しい限りだ。理解を深めるためにも、ブラジルの原点ノルダステにもっと目を向けて」という。

神戸港から最初のブラジル移民船が出港して来年で百年になる。この機会に、ノルダステの文化にも触れてみたい。

(卓)